

アサクラサンショウ成木への春肥の施用効果

アサクラサンショウ成木（10年生）への春肥の施用効果を検証した。有機入り化成肥料を用い、窒素成分で8～12kg/10a程度施用すると、一房当たりの着粒数が増えて房重量が重くなり、無施用に比べて21～28%増収した。

内 容

アサクラサンショウは兵庫県養父市八鹿町朝倉が発祥とされる、トゲがなく、大粒で香りの良い実サンショウである。但馬地域で栽培を振興するなかで、適切な施肥法の開発が求められた。そこで、開花期に近く、収穫への影響が強いと考えられる春期の施肥（春肥）について、生育・収量に及ぼす影響を検討した。

実験には兵庫県朝来市の現地圃場（^ほ礫質^{れき}低地水田土、全窒素、全炭素は0.16、2.07%）で、10年生の成木を1区当たり5樹用いた。施肥は有機入り化成肥料（N：P₂O₅：K₂O＝7：6：6）を用い、10a当たりの窒素施用量として無施用、4、8及び12kgとなるように、2015年3月13日に土壌表面に施用した。5月21日に収量、果実品質及び葉中窒素保有量を調査し、翌年3月に生育調査した。その間の栽培管理は現地慣行とした。

その結果、春肥の8kg以上の施用により、葉の窒素保有量が高まり（図）、12kgの施肥では新梢の伸長を促進することが確認された。収量は施肥により一房当たりの果実数が増加して、房が重くなることで、8kg以上の施肥で有意に高まった（表）。

以上、春肥として有機入り化成肥料を適正量施用すると、新梢の生長を促進し、房の重量を増加させることで、増収につながることを確認された。適正な施肥量は窒素として8～12kgと考えられた。

今後の方針

春肥の次年度以降への影響を把握し、樹齢や樹勢に応じた施肥法の開発につなげる。

牧 浩之（企画調整・経営支援部、
前農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2408）

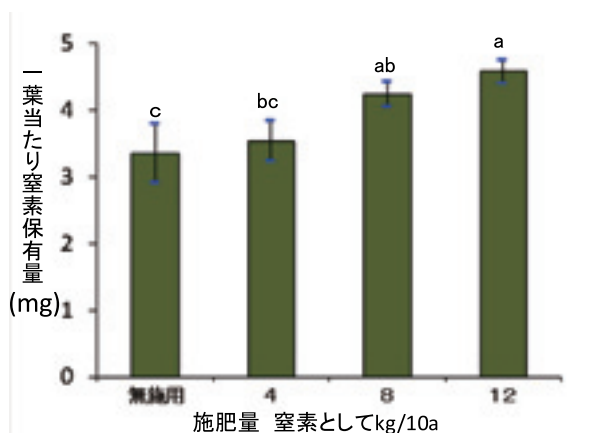


図 春肥によるアサクラサンショウ葉の窒素保有量
文字が異なる場合は5%水準で有意差あり（Tukey法）

表 春肥によるアサクラサンショウの生育及び収量

窒素施用量 (kg/10a)	新梢長 (cm)	収量 (kg/樹)	房重 (g/房)	粒数 (個/房)
12	39.6 a*	5.71 a	4.39 a	71.3 a
8	31.1 ab	5.37 ab	3.78 b	61.5 b
4	30.4 ab	5.19 abc	3.50 b	56.9 b
無施用	24.4 b	4.45 c	2.79 c	45.4 c

*同一列で記号が異なる場合5%水準で有意差あり（Tukey法）